

支援センター名	岡山市子どもチャレンジサポートセンター（ももコンセンター）
所在地	〒700-8544 岡山県岡山市大供一丁目1番1号 （岡山市教育委員会生涯学習課内）
連絡先	Tel 086-803-1606 Fax 086-234-4141 ホームページ <a href="http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/shougaigakushuu/momopoke/momotop.htm">http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/shougaigakushuu/momopoke/momotop.htm</a>

### 事業の概要とポイント

林原生物化学研究所天瀬研究所のボランティアグループ（12名）から、学校支援ボランティアとして、子どもたちに科学の面白さを体験してほしいので科学実験教室を開催したいとの相談があった。そこで、コーディネーターが全小学校にその旨の情報を伝え、希望を募って4小学校で科学教室を開催し、成果を挙げた。

### 関係した学校・団体の名称

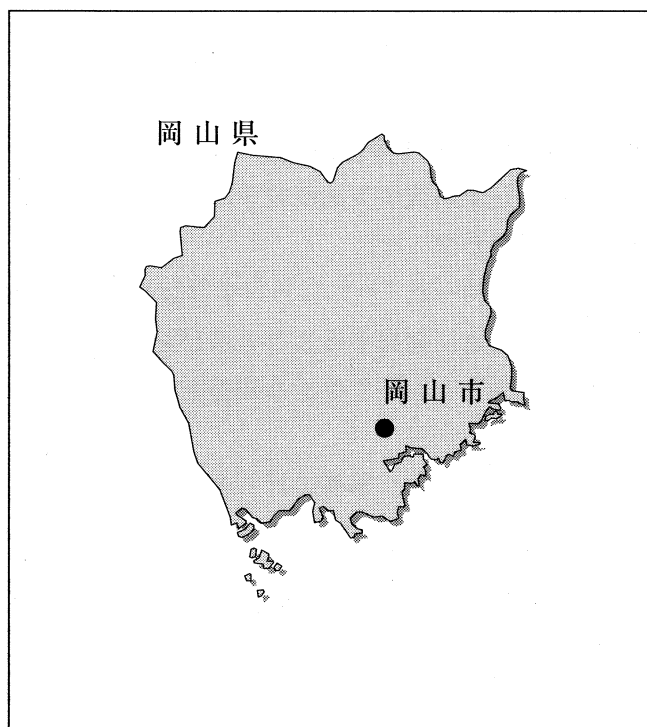
西小学校，横井小学校，足守小学校，富山小学校，林原生物化学研究所天瀬研究所

### 地域の現況・特色

活動対象地域の岡山市の人口は634,700人である。

本岡山市は、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、また、中四国地域の交通の拠点に位置し、平成8年4月には中核市に移行、西日本屈指の都市として着実に発展を続けている。

こうした中、「心豊かで創造的な人間の育成」及び岡山「人づくり」プランに基づく学校・家庭・地域社会の三者による「協働の人づくり」を重点として、「子どもたちが愛されていると実感できる家庭・学校・地域社会の実現」に向けて「開かれた学校づくり」事業などの教育行政を総合的・一体的に推進している。



## 企画から活動までの経緯

- 平成14年7月 林原生物化学研究所天瀬研究所から学校支援ボランティアへの登録と、子どもたちに科学の面白さを体験してほしいので、小学校で「おもしろ科学実験教室」を開催したいとの相談を受けた。
- 平成14年8月 センターから同研究所へ出向き、事業の内容を確認した。また、研究所員の方に学校支援ボランティアへ登録していただくとともに、市内全小学校に対してこの事業の情報を提供し、希望を募った。
- 平成14年9月 「おもしろ科学実験教室」開催に向けて、実施日程や実施方法について、希望の学校と研究所それぞれと話し合いをもち、具体的な準備を始めた。また、研究所と各実施校の教頭及び保護者スタッフとの打ち合わせを行った。
- 平成14年10月19日（土） 西小学校で実施。児童200名、保護者20名、林原生物化学研究所11名、学校支援ボランティア13名、保護者スタッフ12名、教師スタッフ12名、コーディネーターが参加した。
- 平成14年11月30日（土） 横井小学校で実施。児童150名、林原生物化学研究所11名、保護者・教師スタッフ19名、コーディネーターが参加した。
- 平成14年12月14日（土） 足守小学校で実施。児童40名、保護者25名、林原生物化学研究所8名、保護者スタッフ7名・教師スタッフ4名、コーディネーターが参加した。
- 平成15年 2月 1日（土） 富山小学校で実施。児童70名、林原生物化学研究所12名、保護者スタッフ25名・教師スタッフ1名が参加した。

## 事例の展開内容（特色など）

林原生物化学研究所天瀬研究所のボランティアグループ（12名）から、科学実験教室を開催したいとの相談があった。

身近な物を使った「おもしろ科学実験教室」に参加することで、子どもたちは、科学の面白さ、実験の不思議さ、発見することの喜びを体感し、科学に対する芽生えを培うとともに、多くの人とのかかわりをおして生きる姿勢を学んだり、自分を表現する力を身に付けたりすることができた。

実施に当たっては、事前の打ち合わせ及び参加者募集を行った。

当日は、子どもたちが科学に親しめるよう身近な物を使って実験し、同研究所の特徴を生かした糖分の性質を体験するコーナーをはじめ、アイシャドウを利用した指紋採集、水滴顕微鏡作り、一度に何人でも聞こえる風船糸電話作り、割れにくいシャボン玉作り、ペンの色を分けてみるという各体験コーナーを順番に体験していった。

## 企画・活動する上でのポイント、留意点など

当初、子どもたちの人気が高く参加者が多すぎたため、それぞれの実験を落ち着いて体験できるような指導がむずかしかった。そこで、2校目からは定員を設けて実施し、落ち着いて実験できることとなった。

また、事前に研究所のスタッフが実施校に出向き、学校、保護者と打ち合わせを行ったこと、4校とも多数の保護者スタッフ、教師スタッフが補助したことによってたいへんスムーズな進行ができ、事業の目的を達成することができた。

## 評 価

多くの子どもたちと保護者の参加で楽しく科学を学び、アイシャドウやマジック、風船など身近な物を使うことで、科学への関心を深めることができた。

また、開催日を土曜日としたことで、本年度からの完全学校週5日制の実施に伴い、休日における子どもたちの居場所づくり、体験活動の場となり、子どもたちにとってたいへん充実した時間を過ごすことができた。

林原生物化学研究所のボランティアによる化学実験教室は本年度限りの事業のため、今後は、学校、保護者から希望が多い科学実験教室について、指導できるボランティアを募集し、市内の他の事業所や個人の指導者を開拓する必要がある。

## 【活動風景】

